

香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練） 令和4年度実施報告書

令和5年1月
危機管理総局危機管理課

1 シェイクアウトについて

シェイクアウトは、地震を想定して参加者が一斉に身を守る安全確保行動を行うという訓練であり、「場所を問わない」、「時間がかからない」、「それぞれの場所に応じて実施できる」といった特徴があり、他の防災訓練よりも多くの方の参加が可能である。

我が国では平成24年3月に東京都千代田区で初めて実施されて以来、都道府県や市区町村のみならず、自治会などのコミュニティ単位でも実施されるなど、全国的な広がりをみせている。

本県においては、平成25年度から11月5日の「津波防災の日」に合わせて、「香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）」という名称で実施しており、今年度も、家庭、学校、職場など普段の生活場所での訓練への参加を幅広く呼びかけた結果、1,130団体、250,643名の参加登録があった。

2 訓練の目的

東日本大震災の後、平成28年4月に発生した熊本地震では連続した2度の大きな揺れにより甚大な被害が発生し、改めて「自助」の重要性が認識されたところである。

本県に甚大な被害を及ぼすと考えられる南海トラフを震源とする地震については、今後30年以内の発生確率が70%～80%と高い値となっている中、自らの身の安全を守り、被害を最小化するために、次の3点を目的として県民一斉に香川県シェイクアウトを実施した。

①地域防災力の向上

訓練を通じて県民の防災リテラシー（防災に関する知識や技術を自ら学び活用する能力）の向上を図り、「自分の身の安全は自分で守る」ことの意識を身につけていただき、災害に遭っても「ケガ」をしないことを基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の向上に貢献できる人を育成する。

②普段の生活場所での防災対策の確認

広く県民に地震から身を守る行動を一斉に実施することを呼びかけ、県民自ら身の安全を守る行動をとっていただくことによって、地震防災の必要性を改めて認識していただき、家庭、学校、職場等での防災対策を確認するきっかけとする。

③津波防災の日の周知

1月5日の「津波防災の日」は、1854年に発生した安政南海地震の津波の際に、稲に火を付けて暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを高台に避難させて救った「稲むらの火」の逸話にちなみ、2011年6月に成立した津波対策推進法で制定されたものであり、この日を県民に広く周知する。

3 訓練の日時等

(1) 訓練日時

令和4年11月2日(水) 午前10時

※ 参加者の都合により上記の日時に実施できない場合は、日時を変更して実施

(2) 訓練場所

家庭、学校、職場など、普段の生活場所で実施した。

(3) 対象者

個人、団体(保育所・幼稚園・こども園、学校、企業、医療・福祉関係機関、自主防災組織)など、広く県民を対象にした。

(4) 想定

南海トラフを震源とする最大規模の地震が発生したことを想定した。

(5) 訓練の内容

訓練日時になったら、まず姿勢を低くし、頭を守って、その状態で揺れが収まるまで約1分間動かないという「安全確保行動1-2-3」(下図参照)を実施した。

なお、周辺に机やテーブル等の体を隠せるものがあれば、その下に隠れ、体を隠すものが無ければ、倒れそうな棚や落下しそうな照明器具、窓等のガラスなどから離れ、安全な場所を確認した上で、安全確保行動を実施した。



【安全確保行動1-2-3】

- 1 DROP! = まず低く!
- 2 COVER! = 頭を守り!
- 3 HOLD ON! = 動かない!

(6) プラスワン訓練

シェイクアウトは約1分間で終了するが、より一層防災対策の向上を図るため、安全確保行動以外にも、家具の転倒防止、備蓄品の確認、危険箇所の確認など身の回りの防災対策の確認、シェイクアウト後の避難訓練、家庭や組織内における避難場所・連絡体制の確認などの防災に関する話し合い等、シェイクアウトにあわせて「プラスワン訓練」を実施するよう呼びかけた。

今年度は、地震発生直後において身を守るためにとても重要な「家具の転倒防止」に加え、新型コロナウイルス感染症の状況に左右されることなく取り組める内容として、「家族との連絡手段の確認」や「避難経路の確認」にも重点を置き実施を呼びかけた。

(7) 訓練開始の合図

消防庁・気象庁が実施する「津波防災の日に係る緊急地震速報訓練」、NTTドコモが開発した「地震防災訓練アプリ」（設定した訓練日時に専用ブザーが流れ、さらに訓練メッセージが表示される）、RNCラジオで11月2日の午前10時に合わせて放送されたシェイクアウト訓練の放送を訓練開始の合図としたほか、各自での声かけや施設内放送等の合図により、地震が発生したことを想定し訓練を実施した。

(8) 参加登録方法

参加登録は、専用の参加登録用Webサイトからの申込みのほか、ファックス、郵送でも対応した。

4 香川県シェイクアウト実施に向けての広報活動

香川県シェイクアウト実施に当たり、できるだけ多くの県民に参加を呼びかけるために、県、市町、商工会議所等の広報誌などに記事を掲載するとともに、リーフレット、ポスターを作成し、県庁各部署、市町、学校、企業、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、自主防災組織、各種団体等に配布した。

また、各種団体の会合等に出席し、訓練参加への呼びかけを行ったほか、テレビ、ラジオ、ホームページ、SNS等のメディアを活用し周知・広報を行った。

「香川県防災ナビ」（防災アプリ）等の登録者に対しては、別途周知を行った。

リーフレット（表）

リーフレット（裏）

ポスター（B2判）

5 訓練の参加登録実績

(1) 参加団体及び参加者数

1, 130団体、250, 643名

(2) 参加形態

参加形態	団体数	参加人数
個人・家族	45	78
自主防災組織	34	27, 241
保育所・幼稚園・こども園	334	38, 245
小学校・中学校	211	77, 443
高校・大学	44	34, 718
特別支援学校	8	1, 905
専修学校・各種学校等	7	4, 003
行政機関・公的機関	63	17, 881
協同組合	9	12, 840
医療・福祉機関	155	10, 591
企業	190	20, 635
その他の団体	30	5, 063
合計	1,130	250, 643

(3) 市町別参加人数

市町名	参加人数	市町名	参加人数
高松市	143, 126	土庄町	1, 665
丸亀市	23, 288	小豆島町	1, 997
坂出市	11, 254	三木町	4, 664
善通寺市	10, 139	直島町	335
観音寺市	10, 777	宇多津町	5, 289
さぬき市	8, 136	綾川町	3, 114
東かがわ市	4, 891	琴平町	1, 689
三豊市	11, 449	多度津町	4, 598
		まんのう町	3, 679
		その他 (※)	553

※ 複数の市町で実施した団体の参加人数など

(4) プラスワン訓練の登録件数（重複回答あり）

プラスワン訓練	登録件数
家具の転倒防止	171
家族との連絡方法の確認	177
避難場所までの経路の確認	339
備蓄品の確認	315
危険箇所の確認	229
避難訓練	530
防災に関する話し合い	211
自主防災組織との合同訓練	27
小・中・高等学校との合同訓練	21
医療・福祉機関との合同訓練	3
その他	160

6 訓練の様子

【香川県庁】



安全確保行動（シェイクアウト）実施中



全庁にて実施



職員が各役割に応じた災害対応行動を確認
（初期消火班）



消火器の取扱訓練

【三豊市立上高野小学校】



揺れがおさまるまで動きません



頭部を保護してあわてずに避難します



運動場に避難し点呼をとります



校長先生の話真剣に聞きました

○訓練を実施して

- ・「子どもたちはこれからの長い人生で大きな災害に遭遇することがあるだろう。その時に自分で考えて行動できる知識や能力を身に付けさせることが学校の責務だと思っている。」(校長)
- ・「みんなが緊張感をもって訓練できた。(頭文字が)『おはし』の押さない、走らない、しゃべらない、を実行することが大切。いつ地震が来ても焦らずに自分の命を守れるように、これからも真剣に訓練していきたい。」(6年生児童)

7 訓練後のアンケート調査

今後のシェイクアウト訓練の参考とするために、参加者を対象にアンケート調査を行った。

(1) アンケートの調査方法

専用 Web サイトからアンケート調査を実施

(2) アンケート調査期間

令和4年11月2日（水）～12月16日（金）

(3) アンケート調査項目

- Q 1. 参加団体の形態について
- Q 2. 訓練の実施場所について
- Q 3. この訓練の情報を知った手段について
- Q 4. 取り組んだ訓練の内容について
- Q 5. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと
- Q 6. 今回の訓練に関する意見
- Q 7. 次回のシェイクアウトへの参加について

(4) 回答数

700件

＜アンケート結果＞

Q 1. 参加団体の形態について

種別	回答数 (件)
小学校・中学校	200
保育所・幼稚園・こども園	173
行政機関・公的機関	151
医療・福祉機関	99
企業	33
高校・大学	24
その他の団体	8
特別支援学校	7
自主防災組織	2
専修学校・各種学校	1
協同組合	1
個人・家族	1
合 計	700

Q 2. 訓練の実施場所について

項目	回答数 (件)
学校	230
職場	226
保育所・幼稚園・こども園	175
病院・福祉施設	61
公共施設	4
その他	2
家庭	1
屋外	1
計	700

Q 3. この訓練の情報を知った手段について

項目	回答数 (件)
職場での案内	467
その他	87
ポスター・チラシ	60
インターネット	51
回覧板	25
口コミ・人から聞いた	6
テレビ・ラジオ	4
合 計	700

Q 4. 取り組んだ訓練の内容について（複数回答）

項目	回答数（件）
地震時の安全確保行動（シェイクアウト訓練）を行った	6 4 5
避難訓練や消火訓練等を行った	3 0 6
家庭・職場の環境を見直した（家具固定，整理整頓等）	1 3 8
災害時の連絡方法を確認した	1 6 5
非常持出品や備蓄品の点検を行った	1 6 1
その他の防災の取組みを行った	1 1 2
延べ実施数	1, 5 2 7

Q 5. 次回のシェイクアウトへの参加について

項目	回答数（件）
参加したい	6 9 0
参加したくない	7
無回答	3

Q 6. 今回の訓練で防災について改めて気づいたこと（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【小学校・中学校】

- ・市内の防災無線による放送がどのようなものか把握できたことも、成果の1つです。
- ・昨年度に引き続きシェイクアウト後に避難訓練を実施しましたが、今回はけが人の避難についての課題が見つかりました。訓練を行うことで改めて気付くことが毎年あり、改善を続けていくことが大切であると考えています。
- ・災害はいつ、どこで起きるかわからないことを意識し、どんな場合でも冷静に対応できるよう知識を身に付けておく必要性を、低学年のうちから教えていきたいと感じています。
- ・予告せず行った今回は、本来の避難ルートを誤り、大人数が動く流れで避難したようです。前触れもなく起こる災害に直面した時に無駄なく冷静に行動するためには、やはり何度も訓練を行っていただければいけないと改めて実感させられました。
- ・担任に1分間、児童を安心させるような声掛けを続けるように依頼しました。1分間はとても長く感じたので、実際の地震でも同じように対応できるようにしたいです。
- ・実施後に保護者に報告と、啓発のお便りを出しました。学校だけでなく、家庭や地域を巻き込んでいかないといけないと思いました。
- ・緊急放送が流れない箇所もあり、緊急連絡をどのように行うのかを検討し、引き継いでいくことの大切さを感じました。
- ・地区の防災訓練に併せて、防災の授業参観後に実施しました。寒い時期、避難の前に防寒着を着させましたが、もしもの時に温かい場において、避難すると薄着のまま出てしまうかもしれないことに気が付きました。

- ・子どもでも、知識があれば、地域の役に立つことができるのだと感じました。
- ・大人がいないときこそ、子どもだけで判断したり避難したりすることが大切だと思います。

【行政機関・公的機関】

- ・誰でも簡単にできる行動だからこそ、防災意識を高く持ち危機感を持って取り組むべきだと感じました。
- ・頭では理解していたつもりでも、実際訓練をしてみて「ここが想定より時間がかかる」等の気付きがあり、定期的に訓練する必要性を感じました。
- ・職場の机の下のスペースが小さいため、大人が入るには無理があることが改めてわかりました。協議机の下や近くにない場合は廊下などの広いスペースに出るなど、場所に応じた初動避難の訓練がいるのではないかと感じました。
- ・いつも、家庭での非常持出品や備蓄品を、準備しようと思いつつ出来ていないので、今後少しずつ準備しようと思います。
- ・規程やマニュアルの整備は必須ですが、それを一人ひとりに意識付けさせることが最も重要だと感じました。
- ・南海トラフ巨大地震が起こった場合に自分の職場の建物にどのような災害が起こるのか想定する良いきっかけになりました。
- ・皆、あまりにも防災意識が低いことに気づきました。

【保育所・幼稚園・こども園】

- ・こども園では、年齢に応じた避難の仕方が必要となってきます。小さい子になるほど驚いてパニックになることも予想され、子どもどどのような姿にも対応できるよう日頃から職員間での連携をしっかりとっていきたくと改めて感じました。
- ・大人自身が防災意識を身に付けておかなければ、子どもを守ることはできません。園内環境を見直したり、防災について話し合ったりして、意識を高めていきたいと思います。
- ・毎月避難訓練を行っているが、1分間頭を低くして待っているということはしたことがなく、とても長く感じました。
- ・小学校との合同訓練をしたことによって、いつもと違った避難方法や、移動の仕方がわかりました。小学校の職員と前もって話し合いをして進めることで、子どもたちを安全に、早く、スムーズに誘導できることもわかりました。
- ・一斉に避難訓練を行うことで、普段とは違い防災無線を用いた訓練ができました。音量など実際の雰囲気を経験することができ、とても有意義な訓練となりました。
- ・日頃からの避難訓練の積み重ねと、それに基づいた一人ひとりの臨機応変な対応が大切だと感じました。
- ・退路確保に加え、ガラスの飛散防止のためにカーテンを引くなど職員間で共通理解を図りました。
- ・今回は来園していた保護者も巻き込んで取り組みました。園児については定期的に避難訓練を行う一方で家庭での認識はどうであるか保護者と話をすることができ、その必要性を改めて感じることができました。今後家庭への啓発をどのようにしていくのが課題です。
- ・保育園室内での訓練でしたが、実際は室内には携帯電話を持ち込んでいないので、実災害の際にどのように地震速報を確認するかが課題です。

【高校・大学】

- ・ 備蓄品のローリングストックのため、全校生に保存食のパンとごはん、保存水を配布しました。万が一の時には命をつなぐために必要なものですので、生徒一人ひとりが防災に対する意識を高める一助になることを願います。
- ・ 学校以外の場所で起こったときのことを想定した訓練もしくは講習会のようなことも必要なのかと感じました。

【企業】

- ・ 当方スイミングスクールです。お客様の安全確保・避難動線についてマニュアルがありますが、人数が多い場合を再度想定するの必要を感じました。来年度に活かしたいと思います。
- ・ 弊社は、営業活動で日中は外出している職員が多い為、災害時の状況確認（場所・安否）をどのようにするか、あらかじめ決めておくことが大切だと感じました。
- ・ 全社員の安否を確認することは非常に重要なことなので、改善していきたいと思います。

【医療・福祉関係機関】

- ・ 大勢の利用者と職員の協力があり、事故なくスムーズに行えました。
- ・ 今回の訓練で避難訓練を行いました。防火扉の存在や消火器の位置、排煙窓開放についてなど、認識が甘かった点に職員で気づくことができました。
- ・ 来年は、連絡体制確認の訓練を取り入れたいと思います。（しておかなければならないことがたくさんあると気づきました。）
- ・ 足腰の弱い高齢者の避難誘導が難しい事を改めて実感しています。
- ・ 福祉従事者で施設での訓練を実施しました。訓練は一斉放送で呼びかけを行ったが何が起きているのか理解できていない方もおられ、実際の震災時には全員が安全確保行動をとれるように声掛け等の工夫を行う必要があると感じました。
- ・ 訓練であっても緊張感を持って実施することが大切だと思います。
- ・ 前回の訓練時に問題が無かった利用者が、認知力の低下や身体機能の低下により誘導等に時間がかかるようになってきていました。利用者の状態をしっかりと把握し、適切な声掛けや誘導が必要だと改めて気づきました。

【特別支援学校】

- ・ 訓練と分かっているにもかかわらず、焦りや混乱などが見られました。情報伝達ミスもあり、実際に地震が起こったら、現場はパニックになるのではないかと感じました。
- ・ 想定外を減らすため、様々な想定をして訓練を行っていかなくてはならないと思いました。

【自主防災組織】

- ・ 今回で10年目となりますが、自治会（180名ほど）の参加率は65%強と継続しています。一方高齢化も進み、自治会内の総数は減少傾向です。今後は、他都市で実施している「避難カード」を参考にして、カード作りしてみたいと思います。

Q7. 今回の訓練に関する意見（自由回答）

※寄せられた御意見の一部を要約して掲載しています。

【小学校・中学校】

- ・毎年の訓練で南海トラフ地震などに備える意識づけが継続して行われて助かっています。今後も続けてほしいです。
- ・練習では、課題が沢山みつかりました。それこそ、訓練は意味がある。
- ・参加の仕方について、当日の都合に合わせて、時間等を柔軟に変更して取り組むことが可能だったので、参加しやすかったです。
- ・アプリを利用してスマホで放送を流すことができるのはとても良いと思いました。
- ・本番と同じ放送内容や音の提供があると、繰り返し訓練ができるのでありがたいです。
- ・県で一斉に取り組むという企画のおかげで毎年参加でき、感謝しています。
- ・参加申込ができていないのかどうか不明でした。もっと操作や確認が簡単にできるようにしてほしいです。
- ・保護者や地域と一緒に防災学習に取り組めたらよりよいと思います。
- ・3年ぶりに地域と合同で訓練ができてよかったです。
- ・消火体験とシューターを使っただけの避難体験を分散して行いました。消防職員にも来てもらったので、効果が高かったと思います。

【行政機関・公的機関】

- ・大変有意義な訓練ですので、参加組織を増やすための効果的な広報について検討していただきたいと思います。
- ・シェイクアウトでは地震発生から避難までの流れを行うが、実際の被災時を想定すると、避難時の用品持ち出しタイミングや、避難所までの移動経路、避難後の安否確認や家族との連絡までが災害発生時の一連の流れだと思います。一度にすべてを行うのは大変なので、年数回に分けて、各内容についての訓練やチェックを行う方が、いざという際に備えられるのではないかと感じました。
- ・消火訓練がとても良い経験となりました。
- ・今回は職場での訓練を行ったが、家庭における防災対策についても学ぶことができればさらに効果的な訓練になるのではないかと感じました。
- ・民間企業などで訓練を実施している様子をテレビのニュースでもっと取り上げてくれたら、市民にもこの訓練の重要性を知らせることができるのではないかと感じました。
- ・改めて意識付けが出来る訓練だと思います。西日本放送ラジオで放送を行ったのも良かったと思います。

【保育所・幼稚園・こども園】

- ・幼稚園単独だけでなく、県下一斉にということで小学校と合同で行えたことがよかったです。地震はいつ起こるかわからないもので、命をどのように守るのかを日々の生活の中で、知らせていくことが大人の役目だと思います。
- ・保護者や学生と話をしていて、シェイクアウトの認知度が低いように感じました。これをもっと県民に周知できるように働きかけてほしいです。
- ・専用ブザー音とともに、『安全確保行動 1-2-3』の解説「まず低く」「頭を守り」「動かない」

という言葉が入ればいいのではと感じました。保育所の子どもたちには、その方が分かりやすいと思います。

- ・スマホでアプリを取り込んだが、パソコン・タブレットでも対応して欲しいです。
- ・防災ラジオがしっかりと聞こえて、改めて気が引き締まりました。
- ・地域の方々と連携しての訓練を行い、もしもの時に備えてお互い助け合えるように相談、確認ができる関係づくり等していれば、取り残されたりする方を助けられるのではと思います。
- ・防災アプリから、訓練の音が出るよう設定していましたが、時間がきても出なかったです。
- ・県下一斉のシェイクアウトなので県下のいろいろなところでシェイクアウトの放送を一斉に流してほしいと思います。
- ・11/2 親子遠足で瀬戸大橋記念公園に行った際も放送があり、訓練に参加しました。親子で参加できたことが良かったです。
- ・園では、保護者の引渡し訓練も兼ねて行っています。年に一度、保護者参加の訓練は良い啓発活動になっていると感じます。

【高校・大学】

- ・今年度は、外部講師を招いて防災講話を実施することができました。3年に1度の行事で計画していますが、生徒及び教職員共に防災教育として良い啓発活動に取り組みました。
- ・過去の悲惨な出来事を教訓として引き継ぐためにも、9月1日の「防災の日」や11月5日の「津波防災の日」には訓練を実施していきたいと思います。

【企業】

- ・職場で、地震の放送があっても、デスクの下に頭を入れて、身を守る行動を取った人がほとんどいなかったのが残念です。
- ・訓練を続けると、その時々で、訓練の反省点などが出て来るが、その出てきた反省内容を、当たり前やクダラナイなどと放置せず、その意見を拾い出して、改善に繋げることが大切だと遅ればせながら、再認識することが出来ました。
- ・もっと派手に周知して、県民が自分自身で身を守る意識を高めておくべきだと思います。
- ・毎年、県内事業所を含めた防災訓練に併せてシェイクアウト訓練を実施していますが、繰返し実施することで、いざという時の行動が自然と身につくものと思います。

【医療・福祉機関】

- ・参加者への啓発資料を香川県独自に作成していただけるとありがたいです。
- ・地震防災訓練アプリについては、鳴動音テスト再生で鳴動時間が選択できるなど、使い勝手がもう少し良くなればと思います。
- ・町内放送など、県内全地域が一斉に行うと、より分かりやすいと思います。数日前の予告や市町のサイレンなども訓練として活用してはいかがでしょうか。
- ・毎年新入職員がいることから、手軽に取り組める訓練を続けることは効果的だと思います。来年は異なったメニューのプラスワン訓練に取り組みたいです。
- ・災害はコロナ発生中の施設で起こることも充分想定されますが、コロナによるBCPと地震によるBCPは別作成になっており、同時発生の場合は作成できていないのが現状です。どのように優先順位をつけて対応すべきか参考になるものがあれば教えてほしいです。
- ・毎年参加しています。地震対策をみんなで意識する良い機会になっています。この機会を捉

えて、東日本の教訓を伝えたりしています。

- ・人数や時間の関係上、今回は避難訓練ができませんでしたが、皆で防災についての話ができよかったですと思います。

【自主防災組織】

- ・小さな集落ですが、10年間継続して行われたのは、戦争を体験された諸先輩方々のご指導ご協力によるものです。「今後も継続は力なり」をコツコツ行っていこうと思います。

8 課題と改善点

(1) 参加人数・団体について

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大に警戒する中、今年度「香川県シェイクアウト」への参加登録人数は、昨年度と比較すると788人増の25万643人となった。参加形態ごとに比較すると、保育所・幼稚園・こども園、小学校・中学校、専修・各種学校、高校・大学などの教育関係機関の参加人数が、全体の60%余りを占めており、教育現場にシェイクアウトが定着したことが伺える。

また、今年度112団体が初めて参加しており、近年の災害発生状況等を踏まえ、県民の防災に対する意識が高まっているものと考えられる。

単純に参加人数のみをもって成果を評価することはできないが、訓練に参加したことによって新たな「気づき」を得て、対策を検討する動機づけになるという効果がアンケート結果からも複数確認できることから、少しでも多くの方が訓練に参加できるような環境を整えていく必要がある。

(2) プラスワン訓練について

今年度は、地震発生直後において身を守るために重要な「家具の転倒防止」に加え、新型コロナウイルス感染症の状況に左右されることなく取り組める内容として、「家族との連絡手段の確認」や「避難経路の確認」にも重点を置き実施を呼びかけた結果、多くの団体から、延べ2183件もの登録があった。

シェイクアウト（安全確保行動）に加えて各種の防災に関する取組みを行うことで、知識を深めるとともに、防災を意識するきっかけになるなど、訓練実施効果を高められることから、参加団体に実施していただけるよう、次年度以降もプラスワン訓練の意義や事例について周知していきたい。

(3) 訓練開始の合図について

昨年同様、開始合図として「地震防災訓練」アプリや、ラジオ放送が活用できる旨をホームページ、リーフレット等で周知した結果、多くの団体で訓練合図として活用いただいた。

一方、地震防災アプリの鳴動不良についていくらか意見があったが、携帯電話の設定に起因するものと思われるため、アプリ使用時の注意点等について、分かりやすい周知に努めるとともに、参加者が地震発生時の状況をよりイメージできるよう、効果的な情報を提供していきたい。

(4) 「香川県防災ナビ」によるプッシュ通知について

一昨年度から運用を開始した「香川県防災ナビ」の機能を利用して、アプリ登録者のうち訓練開始時刻に津波浸水区域内に滞在している者に対し、プッシュ通知の情報配信を実施した。訓練通知を受信して速やかに避難行動に結びつけてもらうことを目的としたもので、実際に訓練通知を受信した津波浸水区域内の登録者は3,844人であった。この訓練を契機に「香川県防災ナビ」の機能を幅広く知ってもらうとともに、機能を正しく理解し、また受け取った情報をもとに適切に行動に移せるよう、今後も訓練に取り入れていくことが大切であると認識した。

9 おわりに

南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が70%～80%と高い値となっている中で、地震による被害をできる限り軽減し、県民の安全を確保するためには、まずは「自分の身の安全は自分で守る」ことが重要である。

こうした中、平成25年度以降継続して実施している香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）は、今年度で10回目の節目を迎え、県内一斉に多くの方に参加いただき訓練を実施することができた。

訓練後のアンケートに寄せられた参加者の声からは、シェイクアウトに参加したことで様々な「気づき」を得るきっかけになったという意見も多く、県民の防災意識も年々向上してきていると考えられる。

来年度も、さらに多くの方々に参加していただけるよう、プラスワン訓練を含めた訓練参加を引き続き呼びかけるとともに、他の取組事例を紹介するなど、各団体の訓練がより充実したものになるよう取り組んでまいりたい。